

能登を
元気に!

J Aおおぞら 自己改革の取組み

J Aおおぞらは、組合員の営農のため、地域農業のため、そして皆様のくらしのために、
『必要とされ、信頼されるJ A』を目指し、自己改革に取り組んでいます。

基本目標

所得の増大

生産拡大

地域活性化

J Aおおぞらの目指す姿

持続可能な農業の実現

消費者の信頼に応え、安全で安心な能登産農畜産物を持続的・
安定的に供給できる地域農業を支え、農業者の所得増大を支えるJ A

豊かで暮らしやすい地域社会の実現

各事業を通じて地域の生活インフラの一翼を担い、
協同の力で、暮らしやすい地域社会の実現に貢献するJ A

協同組合としての役割発揮

食と農を基軸として
地域に根ざした
協同組合として
存立するJ A

J Aおおぞらは、地域に根ざした協同組合として組合員の営農を支援する事業だけでなく、
地域住民のくらしを支える事業まで、様々な事業を行っています。



ごあいさつ

おおぞら農業協同組合
代表理事組合長

藤田 繁信

日頃は、J Aおおぞら並びにJ A事業に格別のご協力を賜り、
厚く御礼申し上げます。

私たちの暮らす能登半島は、平成23年6月に世界農業遺産に認定されました。この豊かなめぐみを次世代へつなげるため、J Aおおぞらでは『農業』を通じて貢献したいと考えています。

「能登米」「能登棚田米」に代表される能登のお米の生産や直売所「能登おおぞら村」による販売チャネルの拡大、地産地消の推進などを実行し、組合員に必要とされるJ Aを目指しています。

しかしながら、人口減少や高齢化の進行はそのスピードを増し、J Aの経営も厳しさを増しています。そのため、平成29年の役員改選において、役員定数を削減し経費削減を図るとともに認定農業者や実践的能力者を半数以上選出し、経営能力の向上を図りました。

今後も「J Aだからできる」総合事業の提供、協同活動の実践を通じて、営農・生活の向上と地域社会への貢献に努めて参りますので、より一層のお力添えをお願い申し上げますとともに、組合員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成30年10月

自己改革とは？

政府は平成26年6月改定の「農林水産業・地域の活力創造プラン」において、5年間を農協改革集中推進期間と位置づけ自己改革を促すこととしています。

さらに総理大臣からの諮問に対し討議・助言する規制改革推進会議は、平成28年11月に①准組合員の利用を正組合員の半分とする規制の導入、②信用事業を行うJ A数を現状の半数にする。(信用事業の代理店化)、③全農・経済連の株式会社化促進を盛り込んだ「農業改革に関する意見」を提議するなど、実態とかけ離れた議論を助長しています。

「農協改革」の最終目的は、J Aからの信用事業、共済事業の分離等を求めてきたこれまでの議論の延長線上にあります。

実態を無視した「職能組合への回帰」方針等、こうした規制改革の流れは、農業の衰退、地域の崩壊を招き、政府の掲げる農業の成長産業化や地方創生といった政策に逆行するものです。

このため、J Aは自主・自立の組織として、あくまでも農家・組合員の立場に立ったJ Aグループの「自己改革」を尊重するよう、政府・与党に働きかけながら鋭意その改革に取り組んでいます。

人・夢・ふれあい能登半島
おおぞら農業協同組合

地域農業の活性化

消費者の信頼に応え、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を目指します

○ 能登米



能登地区7JAでは、「能登米」を平成26年から生産しています。

平成29年は、JAおおぞら管内で1,000名余の生産者が、3万3千俵を生産しました。

○ おおぞら特産品をPR



大都市圏での商談会や展示会などに積極的に参加し、能登米をはじめとしたおおぞら産農畜産物の発信に努めています。

○ 加工品の製造・販売



能登産カグラモチを使用したもちや干し芋、塩蔵品などを農産物加工場で製造し、能登おおぞら村などで販売しています。

○ 水稲担い手部会設立



平成30年2月に米の品質向上と所得増大を図り、生産者の結束強化を目的に208名で構成された「JAおおぞら水稲担い手部会」を設立しました。

○ 直売所「能登おおぞら村」



平成16年に穴水（平成29年に建替）、平成26年に輪島をオープンしました。

現在、約460名の方がおおぞら産を中心とした農畜産物を出荷しています。

○ のとてまり



原木しいたけ「のと115」のうち、規格を満たした高級品を「のとてまり」として出荷しています。昨年は「のとてまりプレミアム」が、1箱17万円の値を付けました。



地域の活性化

総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かで暮らしやすい地域社会の実現を目指しています

○ Aコープ買い物バス



Aコープでは、無料買い物バスを運行しています。もんぜん店では週9便、能都店では週10便を運行し、組合員・利用者の利便性を図っています。

○ 秋の収穫感謝祭



毎年10月に穴水町平野で農産物品評会や展示会を開催しています。御供田幸子ショーも目玉の一つ。

○ グリーンカレッジ



女性部（JAおおぞら女性協）では、仲間作りや組織の活性化を目的に学習活動を行うグリーンカレッジを開講し、200名の受講生が「食と農」「伝統食」などのテーマで受講しています。

○ 野球教室開催



元プロ野球選手広瀬哲郎氏を迎えての野球教室、8チーム120名が参加しました。

J A共済の地域活性化促進助成金を活用して開催しました。

○ 千枚田で田植え



J Aおおぞらでは、白米千枚田景勝保存活動として、コシヒカリの作付を行っています。田植えには、県立大学の学生の応援を得て100人で行いました。

○ 千枚田結婚式



千枚田で結婚式。毎年さまざまなカップルが式を挙げています。JAおおぞらでは、能登米と能登栗をお祝いにプレゼントしています。

修学旅行生農業体験



○ 毎月2日はおにぎりの日



米飯拡大のため、JAグループでは毎月2日をおにぎりの日としています。中学生へおにぎりの贈呈！たくさん食べて元気に！

○ 愛の助け合い運動



女性部では、ふれあい・助け合いの地域作りを目的に地域福祉活動に対する支援として、管内福祉施設に商品券の贈呈を行っています。

グラウンドゴルフ大会

